

愛車協だより 9月号

令和 6年 9月10日 発行
愛知県 自動車 車体整備協同組合
発行責任者: 正 治 博 史

愛車協HP・QRコード



自動車点検整備推進運動

自動車の日常点検整備や定期点検整備は、日々劣化する自動車を維持するために必要な措置であり、使用者は適切な保守管理を行う必要があることから、中部運輸局では、日頃から点検整備の推進を行っています。例年9月及び10月を「自動車点検整備推進運動」の強化月間とし、適切な点検整備の必要性を啓発するとともに確実な点検整備の励行を積極的に推進しており、令和6年も管内の自動車整備振興会等の自動車関係団体と協力して以下の取組みを行います。

1. 点検整備を推進するための広報・啓発活動

自動車関係団体等の協力のもと、一般ユーザーを対象としたマイカー点検教室等を開催することやポスター・チラシ、デジタルサイネージ等を活用した広報を行うことで点検整備の必要性を広く周知・啓発を図ります。

2. 自動車ユーザー等に対する確認・指導等

ユーザー車検を受検する事業用自動車(自家用大型貨物自動車を含む)で、前検査※の受検者に対して、強化月間中は、直近の3ヶ月定期点検の実施状況を確認することにより、定期点検の重要性について指導します。

(※) 自動車の検査(車検)の前に定期点検整備を行わず、検査後に定期点検整備を行うこと。

また、大型自動車の事故は重大な被害につながりかねないことから、整備不良による車輪脱落事故や車両火災事故を防止するため、トラックやバス運送事業者等へ、具体的な注意点を示したチラシを活用して注意喚起を行います。



育竹其月が《巡回健康診断》



名古屋セントラルクリニックの前期巡回健康診断(一般・有機溶剤等)は、10地区において、8月21日~23日の3日間に40社の197名が受診されました。

施設を提供して頂きました組合員様には心より感謝申し上げます。

今後とも、ご迷惑をおかけしますがご協力を、何卒よろしくお願い申し上げます。



特定整備工場申請状況

特定整備工場制度開始に伴う取得済工場数は、8月末現在愛知県全体で3,957工場(愛整辰情報)が電子制御装置整備を取得しており、その内愛車協組合員の取得数は次のとおりです。

- ① 整備主任者等資格取得講習者数: 147人
- ② 電子制御装置整備の特定整備工場取得者数: 119社
- ③ ②の内分解整備認証を未取得の特定整備工場取得者数: 24社



販売案内「自動車車体整備士名の標板」

愛車協事務局では、自動車車体整備士の資格を取得した方に、お名前を記載して「自動車車体整備氏名」標板を斡旋販売しています。

ご購入の方は、愛車協事務局へ電話にてお申し込みください。

(※ご購入には自動車車体整備士合格証書の写しが必要になります。)

自動車車体整備士標板(氏名記入) 価格:4,400円(記名料、消費税、送料込み)

問合わせ先 愛車協事務局 電話:052-872-9143

Fax:052-872-9510



OBD検査が始まります

OBD検査はじまります!

プレ運用 令和5年10月～
OBD検査開始 令和6年10月～
※輸入車は令和7年10月～

OBD検査が必要かどうかの確認

車検証の備考欄に「OBD検査対象」と記載があります。

OBD検査の要否は、特定DTC照会アプリで自動判定されます。

記録があっても以下の場合は検査不要です

- 検査日が令和6年9月30日以前(輸入車は令和7年9月30日以前)
- 検査日が型式認定年月日から2年を経過していない
- 検査日が初度登録年月または初度検査年月の前月の末日から起算して10ヶ月を経過していない

全て「検査不要」と判定されますが、「OBD検査」モードであれば「実行」ボタンを押してOBD検査を行うことができます。

OBD検査の流れ

- 1 特定DTC照会アプリを起動
- 2 「OBD検査」か「OBD確認」を選択
法令に準拠して検査を実施する場合は「OBD検査」を選択してください。
- 3 車両情報の入力
二次元コードリーダーにタグリーダーがあると便利です。
- 4 検査の実施
▶ 原動機始動
▶ 検査用スキャンツールを接続
▶ 「READY」
▶ 検査「実行」
OBD検査は、原動機ONまたは「READY」で実施
- 5 検査結果の確認
「適合」の例 「不適合」の例

国土交通省 NALTEC 自動車技術総合機構 自動車検査協会

OBD検査は、自動運転技術等の電子装置に搭載された自己診断機能である車載式故障診断装置(OBD)を利用した新たな自動車検査手法です。

OBDによる自動車の装置の故障診断の結果、当該装置に不具合が生じていると判定した場合には、自動車のコンピュータ(ECU)に故障コード(DTC)が記録されます。

OBD検査では、保安基準不適合となるDTCを「特定DTC」としてあらかじめサーバーに蓄積しておき、自動車からDTCを通信により読み取ったうえで特定DTCに該当するかの確認を行います。

2024年10月以降、車検の際、車検証の備考欄に「OBD検査対象」などの記載がある車両について、通常の検査項目に加えてOBD検査を実施する必要があります。

そのため、入庫車両に対してOBD検査が必要かどうかについては、特定DTC照会アプリまたはOBD検査結果参照システムで確認してください。車検証の備考欄に「OBD

検査対象」と記載がある車両はOBD検査が必要になります。

OBD検査の対象となる車両は、国産車は令和3年(2021年)10月1日以降の新型車(フルモデルチェンジ車)、輸入車は令和4年(2022年)10月1日以降の新型車(フルモデルチェンジ車)です。

車検証に「OBD検査対象車」(電子車検証の場合は「OBD検査対象」)などの記載がある場合でも、法令等で定められた条件によりOBD検査を実施しなくてもよいことがあります。

詳しくはOBD検査ポータルサイトでご確認ください。 <https://www.obd.naltec.go.jp/>



余談

今年の夏はパリオリンピックで大いに盛り上がり、日本代表はトータル45個のメダルを獲得しました。海外開催の大会としては過去最多の数です。そして日本選手の活躍は素晴らしく、感動的な場面が多く生まれました。特に注目したいのは、馬術チーム「初老ジャパン」※が92年ぶりにメダルを獲得したことです。(※「初老ジャパン」という名前は、メンバー全員が昭和生まれであることに由来しているそうです。)



これは日本の馬術界にとって大きな意味を持ち、彼らの努力が実を結んだ結果です。

私も「初老」ですが、日々の業務において彼らのように努力と挑戦を続ける姿勢を見習っていきたいものです。